



JS Foundation 御中 ご支援の報告

2021年1月

特定非営利活動法人 ジャパンハート
カンボジア事業部
ジャパンハートこども医療センター



もくじ

1. ミッションと背景	・ ・ ・ P.3
2. ご寄付頂いた医療機器一覧	・ ・ ・ P.4
3. 2019年ご寄付頂いた医療機器の活躍状況	・ ・ ・ P.5
①ポータブルX線装置	
②シリンジポンプ	
③吸引機	
④患者モニター（カテーテルなどの消耗品含）	
⑤Ligasure	
⑥CUSA（超音波吸引装置）	
4. 治療を受けた患者さん	・ ・ ・ P.14
5. おわりに	・ ・ ・ P.17

1. ミッションと背景（再掲）

ミッション

カンボジアに高度な医療を届ける

背景

経済発展が著しいカンボジアですが、医療においては周辺国と比較して発展が遅れています。特に、高度な医療技術と専門性が必要な疾患の治療は難しく、中でも「小児がん」はカンボジア国内での治療が困難な病気の一つです。日本では約8割が治るとされる小児がんですが、カンボジアをはじめとする途上国での生存率は2割以下にとどまっています。

そのような現状を変えるべく、2018年8月、ジャパンハートはカンボジアの郊外に小児病院を開設し、小児がん治療を開始しました。

高度な技術が必要な小児がん治療の体制を整えることは、簡単ではありません。これまでの医療機器と設備では、小児がん治療を行うのには十分ではありませんでした。

術後の管理や迅速な検査を行えるよう、人工呼吸器、ポータブルX線装置など特に高額な医療機器をそろえることは非常に難しく、喫緊の課題となっていました。医療機器を揃え、早急に治療環境を改善するべく、この度次ページに掲載した医療機器のご寄付を賜りました。

2. ご寄付頂いた医療機器一覧

2018年/2019年度にご寄付頂いた医療機器

ご寄付頂いた医療機器		数量
1	ポータブルX線装置	1
2	シリンジポンプ	7
3	吸引機	2
4	患者モニター（カテーテルなどの消耗品含）	3
5	Ligasure（電気メスユニット・脈管シーリングシステム）	1
6	CUSA（超音波吸引装置）	1
7	高品質ボックスオートクレーブ	1
8	血液生化学検査機械（電解質検査機械）	1
9	人工呼吸器（Drager Evita V300 with neonatal option）	1
10	人工呼吸器（COVIDIEN Newport TM HT70 Plus Ventilator）	1
11	ツアーグッズ（Tシャツ、タオル、時計、ポーチなど）	

本報告書では、前半6つの医療機器についてご紹介します。

3. 活動報告 -①ポータブルX線装置

課題

- ・手術中や緊急患者さんの処置中など患者さんを移動させることが困難なとき、レントゲンの検査が必要でも検査を行えませんでした。

導入により実現できたこと

手術室内や救急患者さんの処置をする外来スペースなど、場所を選ばずどこでもレントゲン検査の実施が可能になりました。



Japan



3. 活動報告 -②シリンジポンプ

シリンジポンプとは

輸液と注射を施行する際に、あらかじめ設定した一定量の薬剤を正確に患者さんに注入するために使用する医療機器。輸液スタンドに固定して使用します。

課題

小児がん治療時、特に手術後に様々な薬を同時に注入する必要があり、それぞれの薬剤ごとにシリンジポンプを使用して注入することがあります。しかし、当院で保有するシリンジポンプの数には限られているために、たくさんの重症患者さんを一度に治療することが難しい状況でした。

導入により実現できたこと

十分な台数を備えることで、同時期に複数の重症患者さんを治療する必要があるときも、シリンジポンプを使って薬剤を正確に注入することが可能になりました。



3. 活動報告 -③吸引機 (1/2)

導入により実現できたこと

自力で痰や唾液などの分泌物を吐きだすことが困難な患者さんに対し、口腔内、のど（咽頭、喉頭）、鼻腔、気管、気管支などに溜まっている分泌物を、体外に出すことのできる機器です。



3. 活動報告 -③吸引機(2/2)

使用した時の様子

手術後、集中的な管理が必要な患者さんのそばに常時完備しています。



手術直後、集中管理病棟に入り、集中ケアを受ける患者さんのそばにはいつも、吸引機を設置しています。患者さんの鼻や喉に、詰まりやすい痰などを取り除き、窒息を防ぎます。

3. 活動報告 -④患者モニター

導入により実現できたこと

心電図、血圧、血中酸素飽和濃度（SpO2）、呼吸回数のほか、動脈ライン、中心静脈ライン、EtCO2、体温がモニターできるチャネルがついた患者モニターで、患者さんの術後の管理のために必要なたくさんの情報をこの1台でモニターすることができるようになりました。



3. 活動報告 -⑤Ligasure (血管シーリングシステム)

Ligasureとは

「血管シーリングシステム」と呼ばれる特殊な装置で、直径7mm以下の血管をシールすることで止血や切断が可能となります。

導入により実現できたこと

手術時間を大きく短縮、出血量の減少をすることで、患者さんへの身体への負担を減らすことができました。



機械の先端に取り付け、使用した Ligasure

3. 活動報告 -⑥CUSA(1/3)

CUSAとは

「超音波外科吸引装置」の略で、超音波を使って組織を破碎・乳化させ、破碎組織は付属のハンドピースで吸引します。

肝臓の切断などに使用します。

導入により実現できたこと

CUSAの使用によって、患児の身体に大きな負担のかかる小児がん手術、特に肝芽腫の手術の際、出血量を最小限に抑え、手術時間も短縮することが可能となり、患児の身体にかかる負担を大きく減らすことができました。



3. 活動報告 -⑥CUSA(2/3)

使用した時の様子

2020年10月に実施した小児がん手術では2週間の手術期間に連日使用し、多くの患者さんがこの機械により、長時間に及ぶ体への負担が大きい手術で、より多量に出血するリスクを下げることができました。



CUSAを使用した手術時の様子

3. 活動報告 -⑥CUSA(3/3)

手術を受けた患者さん

CUSAを使った手術を受けた患者さんのひとり、ソピアくん2歳男の子。

肝芽腫（肝臓にできるがん）の疑いがあり、ジャパンハートの病院にきました。

ソピアくんは今年7月下旬のある日、「お腹が痛い」と言い出しました。おばあちゃんがお腹に触ってみると固いものがあることに気づきました。近所のクリニックでエコー検査をしてもらったところ、腹部にかたまりがあるとのことで、プノンペン市内の大きな小児病院を紹介されました。そこでがんの疑いがあることが分かり、当院に紹介されました。

当院では生検の手術を行い、肝芽腫と診断した後、抗がん剤治療を行いました。腫瘍が小さくなったため、2020年10月に腫瘍の摘出手術を行いました。その後抗がん剤治療を受け、11月に無事に退院することができました。

Japan Heart Camb



4.治療を受けた患者さん(1/3)

チャンナラットくん



▲病棟のお友達もたくさんできました。

年齢：8歳

病名:神経芽腫疑い

神経の細胞にできるがんです。小児期にできる腫瘍の中で白血病、脳腫瘍についで多い病気です。特に、5歳以下の子どもの発症率が高いとされています。

チャンナラットくんは、バットンバン州という当院から車で7~8時間離れた農村部に住む小学1年生です。今年9月に入院した当初、腫瘍の影響で、歩くことができず、寝たきりの状態でした。入院してから今日まで抗がん剤治療をよく頑張ってくれて、現在は少しずつ歩く練習ができるほどに元気になりました。同じ病棟で治療を受ける同年代のお友だちとも仲良くなり、よく一緒に遊んでいます。11月には無事に8歳の誕生日を迎えることができました。誕生日会を誰よりも嬉しそうな笑顔で楽しんでいた姿が印象的でした。1月には抗がん剤治療を終え、無事に退院することができました。

4.治療を受けた患者さん(3/3)

パッタイくん



年齢：6歳

病名:縦郭のリンパ腫：リンパ腫とは血液がんの1つで、白血球の中のリンパ球ががん化したものです。リンパ系の組織や臓器は全身にあるため、リンパ腫は全身の部位で発生する可能性があります。

パッタイくんは、9月に息苦しさや、胸の痛み、咳が5日間続いたため、プノンペン最大の小児病院を受診しました。その病院での検査の結果、胸部に腫瘍があることが分かり、がんを無料で治療できる当院を紹介されました。

入院当初は胸の中にある大きな腫瘍のために、呼吸が苦しく、しゃべることすら難しい状態で、入院当初、命が危ぶまれる瞬間もありました。しかし、強い抗がん剤治療薬による副作用にも耐え、徐々に状態がよくなり、遂に12月、無事に退院することができました。退院時お母さんは、「ジャパンハートのカンボジア人と日本人のスタッフが息子の面倒を見てくれて本当に嬉しいです。そして、治療を完了し、よくなって幸せすぎます！もし病気になった子どもがいたら、私はこの病院を受診することを勧めたいです。治療は無料で、心優しいスタッフがしっかりと治してくれるからです。」と仰って下さいました。

4.治療を受けた患者さん(2/3)

セッターくん



年齢：6か月

病名:ウィルムス腫瘍：腎臓にできるがんです。たいていの場合、小児の腹部にしこりができ、腹痛、発熱、食欲不振、吐き気、嘔吐もみられます。治療では、手術、化学療法、ときには放射線療法が行われます。

セッターくんのがんは、当院に来院する2か月前に、国内の大きな小児病院で判明しました。しかし、そこでは到底支払うことのできない、高額な治療費がかかることから、治療を諦め、失意の中、自宅に帰っていました。親戚からジャパンハートの病院で小児がん治療を行っていることを聞き自宅から12時間かけて来院してくださいました。吉岡医師の滞在期間中に来院できたことで、すぐに腫瘍を摘出する手術を受け、その後、術後の抗がん剤治療を受けました。

そして退院日、お母さんは医療スタッフに感謝の想いを伝えてくださいました。

「ここで治療を受けられて本当に嬉しかったです。ジャパンハートの仕事にとても感謝しています。はじめ、息子はもう助からないと思っていました。でも今は無事に治ってとても嬉しいです！本当にありがとうございました。」

5. おわりに

ジャパンハートこども医療センターの開院前より現在に至るまで、
当院の医療活動を継続して応援くださいます、誠にありがとうございます。

2020年は、新型コロナウイルスの世界的流行の影響で、小児がんの治療を続けるために多くの壁が立ちはだかった一年でした。そんな状況下でもカンボジア全土から毎月たくさんの小児がん患者さんが当院に入院しました。自宅から12時間かけてやっとたどり着いた患者さんもうらっしゃり、多くのカンボジア人から、希望や想い、信頼を託されている病院であることをより一層実感する1年になりました。貴ファウンデーションのご支援によって導入が叶った医療機器をフルに活用させて頂きながら、日々治療にあたっています。

2020年10月に実施した小児がんの手術期間にも、ご寄贈いただいた医療機器のLigasure や CUSA等が大変活躍しました。結果として、1ヵ月強で14名の小児がん患者さんへ手術を実現することができ、この時手術を受けた患者さんたちは、抗がん剤治療を終えた後、続々と無事に退院しております。2021年も1月中旬からたくさんの小児がん手術の実施しており、引き続き大切に医療機器を使用させて頂いております。

2021年も、温かくお見守り頂けると大変励みになります。

引き続きどうぞよろしくお願い致します。

ジャパンハートカンボジア スタッフ一同